

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	一宮市はとぼっぼ		
○保護者評価実施期間	2026年12月1日		2026年12月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15 (回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2026年12月		年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの障害特性や発達段階に合わせた支援を行っていること。	重症心身障がいのお子さんや医療的ケアが必要なお子さんも安心して過ごせる環境を整え、その子らしく過ごせる時間を大切にしている。遊びを通して興味関心を把握し、好きなこと、楽しいことの経験を増やし、やってみようと思える支援をしている。	保護者と日頃から伝え合い、情報共有や相談に丁寧に対応し、密な連携を図る。療育終了後、気づき、振り返りの時間があり、PDCAを意識した話し合い、職員間で共有している。研修会や勉強会など通して職員のスキルアップを図る。また、OJTの活用、実際の療育を通して必要な知識やスキルを身に付けていく
2	親子通園のため、一緒に過ごす中で、おこさんへのかかわり方や過ごし方を身に付けることができること。	保護者と日頃からこどもの体調面や様子などアセスメントを行う。こどもの表情や動きを見つけ、保護者に伝え、共有できる。子どもの成長を認める時間を大切にしている。保育士が見本を見せたり、一緒にやったり具体的に分かりやすく伝える。	こどもと保護者も安心して過ごせる環境を整える。日頃から話したり、聞いたり、話せる時間や場を作る。また、親子で楽しめる活動を提供していく。保護者支援では、療育支援事業など勉強する場を提供し、参加を促していく。
3	土曜日開所していること。	働く保護者や、父親と通うことで、お子さんの様子や成長を直接確認できること。一緒に活動することで、家庭での生活の関わり方など覚えていけるような支援をしている。	こどもと保護者も安心して過ごせる環境を整える。限られた時間の中、目的を明確にし、聞き取りや話す時間を意図的に持つ。また、父親同士の交流なども取り組めるようにしていく。
4	保護者同士の交流ができること。	保護者主催の活動を取り入れ、保護者同士の交流や関係作りを支援している。先輩の保護者を招き、お話を聞く機会など行っている。	保護者の方が将来について不安だという声がある。保護者が何に不安なのか、聞き取りをし、何を求めているか把握する。こどもが大きくなった保護者と交流できる機会も継続的に実施していく予定。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	看護師が常駐していない。(看護師がいることで体調に合わせた参加など親子共により安心して療育に参加ができると思われる)	重症心身障害児型ではないため、人員配置基準は満たしている。親子通園のため、保護者が対応している。	予算の制約や人材の確保の難しさが困難であるが、改善に向けて必要なこと伝えていく。
2	ホームページ・SNS等の発信ができてない。	自己評価結果表は、掲載できているが、SNSでの情報発信は必要と考えているが、SNSに対して知識不足や人員がない。	利用者には、計画などは配布し、掲示や口頭でお知らせしています。SNS運用については、知識や利用方法、情報倫理やリスク管理など学んでいく。
3	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がない。	お子さんの特性や状況から参加することは難しい所がある。	父母の会での行事やボランティアによる音楽会の開催しています。また、園庭開放や参加の機会を検討してしていく。